

コンドームの使用の理由は、選択肢が1つのため「確実な避妊法」が最も多く、次に「安心できるから」であり、「STD 予防のため」は未婚男性で4分の1であったものの、その認識は低いことが窺い知れた。

3. コンドーム未使用者の STD に対する認識

STD との関係性について「自分とは関係ない」と考えているのが既婚者のみで男性 25.9%、女性 14.6%と男性に高いものの有意差はなく、「関係ないとは思わないが危機感はない」が大半で「身近に危機感がある」と回答しているのが男女とも1割強であり、STD に対する認識は極めて低いものと思われた。

Ⅶ章. 予期せぬ妊娠の防止について

1. 低用量ピルに対する意識

低用量ピルを使用しているのか否か、使用したいのか否かについて問いかけている。ピル服用に関しては女性が自らの意志で行うものであり、男性は側面からの立場でしか過ぎない。服用していると考えているのは、パートナーから告げられている場合のみであり、「使いたい」は「使って欲しい」や「使いたくない」は「使って欲しくない」という男性からの思惑にしかすぎない。その点を考慮しての低用量ピルに対する意識として捉えなければならぬ。

表 1-1. 男性からみた低用量ピルの使用に対する意識

	世代	使用している	ぜひ使って欲しい	今の状況では使って欲しくない	使って欲しくない	無回答	総計
未婚	16-24 歳	3(2.9)	22(21.2)	11(10.6)	60(57.7)	8(7.7)	104
	25-34 歳	1(1.0)	10(9.9)	14(13.9)	67(66.3)	9(8.9)	101
	35-44 歳	2(2.6)	6(7.8)	8(10.4)	54(70.1)	7(9.1)	77
	45 歳以上	1(5.6)	2(11.1)	2(11.1)	13(72.2)		18
未婚男性計		7(2.3)	40(13.3)	35(11.7)	194(64.7)	24(8.0)	300
既婚	16-24 歳	1(33.3)			2(66.7)		3
	25-34 歳	22.2)	7(7.7)	5(5.5)	74(81.3)	3(3.3)	91
	35-44 歳	1(0.6)	6(3.5)	12(7.0)	140(81.4)	13(7.6)	172
	45 歳以上	1(1.4)	6(8.2)	1(1.4)	58(79.5)	7(9.6)	73
既婚男性計		5(1.5)	19(5.6)	18(5.3)	274(80.8)	23(6.8)	339
未既婚不明						8(100)	8
男性総計		12(1.9)	59(9.1)	53(8.2)	468(72.3)	55(8.5)	647

未婚男性でパートナーが低用量ピルを服用していると思っているのは 7 名(2.3%)で、既婚では 1.5%となっていた。実際に女性がピルを服用しているのは、未婚女性で 19 名(6.1%)であり 3.8 ポイントの乖離がみられている。既婚女性は 1.2%であり、男性との乖離は 0.3 ポイントと少ない。

「使って欲しい」は、未婚男性で 13.3%、使いたいと考える未婚女性は 14.4%とほぼ同じ値であった。既婚男性は 5.6%、既婚女性は 6.9%と女性の方がやや高値であった。「使って欲しくない」男性は、未婚で 64.7%、既婚 80.8%に対し「使いたくない」女性は、未婚 64.4%、既婚 77.7%であり、未既婚の男女間に差は認められなかった。

表 1-2. 女性の低用量ピルの使用に対する意識

	世代	使用している	ぜひ使いたい	今の状況では使えない	使いたくない	無回答	総計
未婚	16-24 歳	4(3.1)	17(13.3)	14(10.9)	88(68.8)	5(3.9)	128
	25-34 歳	10(9.1)	24(21.8)	11(10.0)	60(54.5)	5(4.5)	110
	35-44 歳	4(7.1)	3(5.4)	4(7.1)	39(69.6)	6(10.7)	56
	45 歳以上	1(5.6)		2(11.1)	14(77.8)	1(5.6)	18
未婚女性計		19(6.1)	44(14.1)	31(9.9)	201(64.4)	17(5.4)	312
既婚	16-24 歳	1(20.0)			4(80.0)		5
	25-34 歳	1(0.8)	9(7.0)	9(7.0)	103(80.5)	6(4.7)	128
	35-44 歳	3(1.3)	17(7.1)	9(3.8)	184(76.7)	27(11.3)	240
	45 歳以上	1(0.8)	8(6.6)	5(4.1)	93(76.9)	14(11.6)	121
既婚女性計		6(1.2)	34(6.9)	23(4.7)	384(77.7)	47(9.5)	494
未既婚不明			1(6.7)		4(26.7)	10(66.7)	15
女性総計		25(3.0)	79(9.6)	54(6.6)	589(71.7)	74(9.0)	821

実際にピルを服用している女性は未婚女性において第 3 回調査では 266 名中 6 名(2.3%)であったのに対し、今回では 6.1%と上昇しており有意差($p < 0.05$)を認めた。既婚女性では、前回調査で 449 名中 8 名(1.8%)だったのが、494 名中 6 名(1.2%)と下回っていた。しかしながら「ぜひ使いたい」が未婚女性の前回は 9.0%だったのに対し 14.1%、既婚女性前回 4.0%に対し 6.9%といずれも上昇していることから、使用意向の広がりが見られているといえよう。

尚、V-6 項の現在行っている避妊法でピルの使用が、未婚女性で 13.3%、既婚女性 2.2%であったのに対し、低値となっているのは、避妊実行者と全体を対象とした母数の違いによるものである。

2. 低用量ピル使用に対する理由

低用量ピルを既に使用している場合と使用したいと考えている際の理由を問いかけている。男性からみた理由としては、「避妊効果が高い」が 40.8%と、未婚 46.8%、既婚 29.2%と第 1 に上げていた。既婚が 29.2%と低いものの有意差は認めず、母数が少ないためで既婚の 35 歳以上では 35.7%となっている。次に高値を占めているのに「セックスの際に避妊を意識しなくてすむ」が 15.5%、「女性自身の意思で使える」12.7%となっていた。

表 2-1. 男性からみた低用量ピル使用に対する理由

	未婚男性		既婚男性		男性 総計
	35歳未満	35歳以上	計	計	
避妊効果が高い	16(44.4)	6(54.5)	22(46.8)	7(29.2)	29(40.8)
手軽に使える	3(8.3)		3(6.4)	1(4.2)	4(5.6)
低用量だから副作用が少ない	1(2.8)		1(2.1)	2(8.3)	3(4.2)
女性自身の意思で使える	4(11.1)	2(18.2)	6(12.8)	3(12.5)	9(12.7)
セックスの際に避妊を意識しなくすむ	4(11.1)	1(9.1)	5(10.6)	6(25.0)	11(15.5)
人工妊娠中絶をしないうすむ	2(5.6)	1(9.1)	3(6.4)	1(7.1)	4(5.6)
多くの国で使われている実績がある	0	0	0	0	0
月経痛の緩和や貧血の予防など副作用がある	3(8.3)	0	3(6.4)	1(10.0)	5(7.0)
この中にない	2(5.6)	1(9.1)	3(6.4)	1(7.1)	4(5.6)
無回答	1(2.8)		1(2.1)	1(10.0)	2(2.8)
総計	36(100)	11(100)	47(100)	24(100)	71(100)

女性からみたピル使用に対する理由は、男性同様に「避妊効果が高い」で34.6%、未婚31.7%、既婚37.5%であった。年齢が高い女性に高値であるように窺われた。次に多かったのは「女性自身の意思で使える」であり、23.1%、未婚23.8%、既婚22.5%と有意差は認めないものの男性よりも高値を示していた。続いて「月経痛の緩和や貧血の予防など副作用がある」が多く、13.5%、未婚11.1%、既婚13.5%であり、これは男性と異なってピルの持つ副作用の認識が高く示されていた。

表2-2. 女性からみた低用量ピル使用に対する理由

	未婚女性			既婚女性			女性 総計
	35歳未満	35歳以上	計	35歳未満	35歳以上	計	
避妊効果が高い	15(27.3)	5(62.5)	20(31.7)	4(36.4)	11(37.9)	15(37.5)	36(34.6)
手軽に使える	2(3.6)		2(3.2)		2(6.9)	2(5.0)	4(3.8)
低用量だから副作用が少ない	2(3.6)		2(3.2)		1(3.4)	1(2.5)	3(2.9)
女性自身の意思で使える	14(25.5)	1(12.5)	15(23.8)	3(27.3)	6(20.7)	9(22.5)	24(23.1)
セックスの際に避妊を意識しなくてすむ	5(9.1)		5(7.9)		5(17.2)	5(12.5)	10(9.6)
人工妊娠中絶をしないですむ	3(5.5)		3(4.8)		1(3.4)	1(2.5)	4(3.8)
多くの国で使われている実績がある	1(1.8)		1(1.6)				1(1.0)
月経痛の緩和や貧血の予防など副効用がある	7(12.7)		7(11.1)	4(36.4)	3(10.3)	7(17.5)	14(13.5)
この中がない	5(9.1)	1(12.5)	6(9.5)				6(5.8)
無回答	1(1.8)	1(12.5)	2(3.2)				2(1.9)
総計	55(100)	8(100)	63(100)	11(100)	29(100)	40(100)	104(100)

前回調査時は、対象となる「使用している」女性や「使用したい」女性が未婚女性30名、既婚女性26名と56名に対して、今回調査時の対象者が未婚63名、既婚40名、計104名と母数が2倍近くまで多くなっているだけに、より客観的に今回の調査による「女性が考えるピル使用の理由」と捉えることができると思われる。

3. 低用量ピル使用の目的

低用量ピル使用者と使用意向者に対して、避妊を目的としたものか、避妊よりも副効用を目的か否かを問いかけている。

表 3-1. 男性からみて考えるピル服用の目的

		避妊目的	(%)	副効用	(%)	両方目的	(%)	無回答	(%)	総計
未婚	35歳未満	28	77.8	1	2.8	5	13.9	2	5.6	36
	35歳以上	8	72.7	0	0.0	1	9.1	2	18.2	11
	計	36	76.6	1	2.1	6	12.8	4	8.5	47
既婚	35歳未満	4	40.0	2	20.0	2	20.0	2	20.0	10
	35歳以上	11	78.6	0	0.0	1	7.1	2	14.3	14
	計	15	62.5	2	8.3	3	12.5	4	16.7	24
総計		51	71.8	3	4.2	9	12.7	8	11.3	71

表 3-2. 女性が考えるピル服用の目的

		避妊目的	(%)	副効用	(%)	両方目的	(%)	無回答	(%)	総計
未婚	35歳未満	25	45.5	2	3.6	20	36.4	8	14.5	55
	35歳以上	6	75.0	1	12.5	0	0.0	1	12.5	8
	計	31	49.2	3	4.8	20	31.7	9	14.3	63
既婚	35歳未満	5	45.5	3	27.3	2	18.2	1	9.1	11
	35歳以上	15	51.7	1	3.4	10	34.5	3	10.3	29
	計	20	50.0	4	10.0	12	30.0	4	10.0	40
総計		51	49.0	7	6.7	33	31.7	13	12.5	104

表 3 に示すごとく男性は 71.8% が避妊目的と考えているが、女性は 49.0% であり、避妊と副効用の両方を目的としているのが 3 分の 1 ほどにみられた。

4. 低用量ピル服用の満足度

低用量ピル服用者に対して、服用に対する満足度について問いかけている。男性からの回答は、実際にピル服用者から聞いて理解しているものと推測のなかで回答しているためか、「満足している」と回答したのが 41.7% であり、25% は無回答であった。

女性の服用者 25 名中「満足している」と回答したものが 15 名 (60.0%) であり、7 名 (28.0%) が「まあ満足している」であった。「やや不満」の 1 名は 35 歳未婚女性で副効用を目的にしており、使用理由は選択肢の中に含まれていないものであった。「不満」の 1 名は 28 歳未婚女性で避妊と副効用を目的にし、使用理由は同様選択肢の中に入らないものであった。

表 4-1. 男性からみたピル服用の満足度

		満足	(%)	まあ満足	(%)	やや不満	(%)	不満	(%)	無回答	(%)	総計
未婚	35歳未満	3	75.0	1	25.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4
	35歳以上	1	33.3	1	33.3	0	0.0	0	0.0	1	33.3	3
	計	4	57.1	2	28.6	0	0.0	0	0.0	1	14.3	7
既婚	35歳未満	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	2	66.7	3
	35歳以上	1	50.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2
	計	1	20.0	1	20.0	1	20.0	0	0.0	2	40.0	5
男性総計		5	41.7	3	25.0	1	8.3	0	0.0	3	25.0	12

表 4-2. 女性からみたピル服用の満足度

		満足	(%)	まあ満足	(%)	やや不満	(%)	不満	(%)	無回答	(%)	総計
未婚	35歳未満	8	57.1	4	28.6	0	0.0	1	7.1	1	7.1	14
	35歳以上	2	40.0	2	40.0	1	20.0	0	0.0	0	0.0	5
	計	10	52.6	6	31.6	1	5.3	1	5.3	1	5.3	19
既婚	35歳未満	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2
	35歳以上	4	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4
	計	5	83.3	1	16.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6
女性総計		15	60.0	7	28.0	1	4.0	1	4.0	1	4.0	25

5. 低用量ピルを使用したくない理由

男性が低用量ピルを使わせたくない理由に、最も多いのが「副作用が心配」55.7%であり、次に多いのが「女性だけに負担がかかる」12.9%、その他は10%を下回っていた。

女性がピルを使いたくない理由として、「副作用が心配」53.0%であり、他は10%を下回っていた。この副作用の心配は未既婚間に差はなく、35歳未満で46.0%に対し35歳以上58.6%と高値で有意差($p < 0.01$)を認めた。

このことは低用量ピルのことを理解できるようになり、副効用のことも理解できるようになるとピルの副作用神話は払拭されてくるものと思われた。

表 5-1. 男性が考える低用量ピルを使用させたくない理由

	未婚男性			既婚男性			男性 総計
	35歳未満	35歳以上	計	35歳未満	35歳以上	計	
副作用が心配	79 (52.0)	48 (62.3)	127 (55.5)	44 (54.3)	119 (56.4)	163 (55.8)	290 (55.7)
情報が入り手でない	16 (10.5)	5 (6.5)	21 (9.2)	3 (3.7)	17 (8.1)	20 (6.8)	41 (7.9)
相談する場所がない	0	0	0	0	0	0	0
毎日飲むのが面倒	0	1 (1.3)	1 (0.4)	0	2 (0.9)	2 (0.7)	3 (0.6)
女性だけに負担がかかる	28 (18.4)	13 (16.9)	41 (17.9)	10 (12.3)	16 (7.6)	26 (8.9)	67 (12.9)
既に使っている避妊法で十分	10 (6.6)	3 (3.9)	13 (5.7)	5 (6.2)	29 (13.7)	34 (11.6)	47 (9.0)
STD やエイズを予防できない	4 (2.6)	2 (2.6)	6 (2.6)	1 (1.2)	4 (1.9)	5 (1.7)	11 (2.1)
費用がかかりすぎる	0	0	0	1 (1.2)	1 (0.5)	2 (0.7)	2 (0.4)
パートナーが反対している	1 (0.7)	0	1 (0.4)	1 (1.2)	0	1 (0.3)	2 (0.4)
医師の診察を受けるのが面倒	4 (2.6)	0	4 (1.7)	2 (2.5)	2 (0.9)	4 (1.4)	8 (1.5)
年齢が高いので使えない	0	0	0	0	0	0	0
病気があるため使えない	0	0	0	0	1 (0.5)	1 (0.3)	1 (0.2)
ここにはない	9 (5.9)	5 (6.5)	14 (6.1)	14 (17.3)	19 (9.0)	33 (11.3)	47 (9.0)
無回答	1 (0.7)	0	1 (0.4)	0	1 (0.5)	1 (0.3)	2 (0.4)
総計	152 (100)	77 (100)	229 (100)	81 (100)	211 (100)	292 (100)	521 (100)

表5-2. 女性が考える低用量ピルを使用したくない理由

	未婚女性			既婚女性			女性 総計
	35歳未満	35歳以上	計	35歳未満	35歳以上	計	
副作用が心配	85(49.1)	42(71.2)	127(54.7)	48(41.4)	163(56.0)	211(51.8)	341(53.0)
情報が入手できない	22(12.7)	1(1.7)	23(9.9)	8(6.9)	8(2.7)	16(3.9)	39(6.1)
相談する場所がない	0	1(1.7)	1(0.4)	0	1(0.3)	1(0.2)	2(0.3)
毎日飲むのが面倒	19(11.0)	2(3.4)	21(9.1)	11(9.5)	16(5.5)	27(6.6)	49(7.6)
女性だけに負担がかかる	9(5.2)	6(10.2)	15(6.5)	5(4.3)	10(3.4)	15(3.7)	30(4.7)
既に使っている避妊法で十分	9(5.2)	1(1.7)	10(4.3)	19(16.4)	24(8.2)	43(10.6)	53(8.2)
STDやエイズを予防できない	7(4.0)	1(1.7)	8(3.4)	1(0.9)	2(0.7)	3(0.7)	11(1.7)
費用がかかりすぎる	8(4.6)	0	8(3.4)	5(4.3)	3(1.0)	8(2.0)	16(2.5)
パートナーが反対している	0	0	0	0	1(0.3)	1(0.2)	1(0.2)
医師の診察を受けるのが面倒	6(3.5)	0	6(2.6)	8(6.9)	12(4.1)	20(4.9)	26(4.0)
年齢が高いので使えない	0	2(3.4)	2(0.9)	0	1(0.3)	1(0.2)	3(0.5)
病気があるため使えない	1(0.6)	0	1(0.4)	0	2(0.7)	2(0.5)	3(0.5)
ここにはない	7(4.0)	3(5.1)	10(4.3)	10(8.6)	46(15.8)	56(13.8)	66(10.3)
無回答	0	0	0	1(0.9)	2(0.7)	3(0.7)	3(0.5)
総計	173(100)	59(100)	232(100)	116(100)	291(100)	407(100)	643(100)

Ⅶ. 予期せぬ妊娠の防止について小括

1. 低用量ピルに対する意識

女性自らが確実にできる避妊法として「低用量ピル」が使われるようになって8年が経過したが、実際に使用している女性は、今回の調査で未婚女性6.1%、既婚女性1.2%、女性全体で3.0%と前回調査の1.8%を上回り、特に未婚女性においては前回調査2.3%であったのが6.1%と有意($p < 0.05$)に上昇していた。しかしながら、既婚女性においては前回調査が1.8%であったのに対し1.2%と伸び悩んでいることが明らかとなった。

「現在使用していないが是非使用したい」と考える未婚女性も増加していたが既婚者の増加は微増に留まっており、「使って欲しい」と考える男性も未婚13.3%、既婚5.6%と女性とほぼ同じ値を示していた。

逆に、「使いたくない」と考えるのは、未婚者を除き前回調査と同様に8割と高値のままであった。

2. 低用量ピル使用の理由

ピル使用に際しての理由は、「確実な避妊効果」であり、次に「女性自身の意志で使える」、そして「月経痛の緩和や貧血の予防などの副効用」を上げていた。男性では「セックスの際に避妊を意識しなくてすむ」と考えるのが女性の9.6%より15.5%と高値を示し、「避妊効果」の次に挙げていた。

3. 低用量ピル使用の目的

ピル使用の目的として避妊をあげているのが半数近くであり、避妊と副効用の両者を上げているのが約3割であったことから、ピルの副効用に対する考えが浸透し始めてきたと思われる、その結果としてピルの使用者が増えてきたものと考えられる。

4. 低用量ピル使用の満足度

ピル使用者の満足度は88%が満足しており、「やや不満」と「不満」を訴えるのが、それぞれに1名みられた。ピルの満足度については、未婚19名、既婚6名と少なく十分な評価には至っていないため参考程度にと留める。

5. 低用量ピルを使用したくない理由

5割強の女性が「副作用を心配して使いたくない」という理由であり、特に35歳以上の女性が多くみられていた。このことは若い女性にピルの副効用が知られるようになって使用率が上昇してきている背景を考えるなら、確実に自らの意志で避妊ができ数多くの副効用が理解されるようになってくると使用者の増加がみられると思われた。

特に、35歳以上の女性に対しピルの副効用の理解を深めることが喫緊のテーマであることが明らかにされた。

Ⅷ章. 人工妊娠中絶について

1. 人工妊娠中絶に対する考え

人工妊娠中絶に対する考えであるが、「認める」は男性 13.8%に対し女性 8.0%と有意($p<0.001$)に低値を示していた。これを未既婚者間でみると男性は未婚者に高く、女性の既婚者が高かったが有意差を認めなかった。その他の「条件付で認める」や「認めない」、「どちらともいえない」については男女間に差はみられなかったし、35歳を境にした年代別においても有意差は認められなかった。

表 1. 人工妊娠中絶の容認に対する考え

		認める	(%)	条件付で認める	(%)	認めない	(%)	どちらともいえない	(%)	このなかにな	(%)	無回答	(%)	総計
未婚	35歳未満	31	15.1	102	49.8	20	9.8	45	22.0	2	1.0	5	2.4	205
	35歳以上	16	16.8	48	50.5	10	10.5	18	18.9	2	2.1	1	1.1	95
	計	47	15.7	150	50.0	30	10.0	63	21.0	4	1.3	6	2.0	300
既婚	35歳未満	13	13.8	51	54.3	3	3.2	24	25.5	2	2.1	1	1.1	94
	35歳以上	29	11.8	152	62.0	15	6.1	39	15.9	3	1.2	7	2.9	245
	計	42	12.4	203	59.9	18	5.3	63	18.6	5	1.5	8	2.4	339
男性総計		89	13.8	353	54.6	48	7.4	126	19.5	10	1.5	21	3.2	647
未婚	35歳未満	17	7.1	136	57.1	19	8.0	57	23.9	4	1.7	5	2.1	238
	35歳以上	6	8.1	51	68.9	4	5.4	12	16.2	0	0.0	1	1.4	74
	計	23	7.4	187	59.9	23	7.4	69	22.1	4	1.3	6	1.9	312
既婚	35歳未満	12	9.0	78	58.6	9	6.8	27	20.3	4	3.0	3	2.3	133
	35歳以上	31	8.6	208	57.6	16	4.4	81	22.4	6	1.7	19	5.3	361
	計	43	8.7	286	57.9	25	5.1	108	21.9	10	2.0	22	4.5	494
女性総計		66	8.0	475	57.9	49	6.0	178	21.7	15	1.8	38	4.6	821

2. 人工妊娠中絶の既往について

人工妊娠中絶の既往について問いかけている。この設問も男性からみると不確かなこととで、どこまで現実を理解しているかといえよう。女性が「一度もない」と回答しているのが 76.0%であり男性は 75.9%であった。「わからない」が男性 9.1%に対し女性 1.8%と有意($p<0.001$)に低値を示し、この女性の「わからない」と「無回答」は答えたくないという心理的側面が垣間みられた。また、「無回答」は男性 7.4%に対し女性 7.3%とほぼ同等であった。この数値からみて、「わからない」と「無回答」を除いて考えるなら女性の中絶の経験者は、821名中 122名(14.9%)ということになる。そのうち 2回以上の経験者は 31名(25.4%)と 4分の1となっている。この複数回

の経験者をみると未婚で35.0%、既婚21.1%と有意差はみられないものの未婚に多く、年齢でも35歳以上が多く27.3%と35歳未満の22.7%であり、未婚の35歳以上では46.7%と半数が複数回の経験者であった。

男性が回答している女性の経験者は46名(7.1%)にしか過ぎない。しかも、複数回は15名のみであった。しかも未婚者で比べると男性は18名に対し女性39名と2.2倍も多い数値が示されていた。

女性の中絶経験者の既往を未婚別にみると4回以上が未婚者に4名もみられ既婚者は皆無であった。

表2. 人工妊娠中絶の既往について

		1	(%)	2	(%)	3	(%)	4	(%)	5	(%)	一	(%)	わ	(%)	無	(%)	総
		回		回		回		回		回		度		か		回		計
										以上		も		ら		答		
												ない		ない				
未婚 男性	35歳未満	7	3.4	2	1.0	1	0.5	0	0.0	0	0.0	165	80.5	18	8.8	12	5.9	205
	35歳以上	7	7.4	0	0.0	1	1.1	0	0.0	0	0.0	65	68.4	13	13.7	9	9.5	95
	計	14	4.7	2	0.7	2	0.7	0	0.0	0	0.0	230	76.7	31	10.3	21	7.0	300
既婚 男性	35歳未満	8	8.5	5	5.3	1	1.1	0	0.0	0	0.0	73	77.7	5	5.3	2	2.1	94
	35歳以上	9	3.7	4	1.6	1	0.4	0	0.0	0	0.0	188	76.7	26	10.6	17	6.9	245
	計	17	5.0	9	2.7	2	0.6	0	0.0	0	0.0	261	77.0	31	9.1	19	5.6	339
男性総計		31	4.8	11	1.7	4	0.6	0	0.0	0	0.0	491	75.9	62	9.6	48	7.4	647
未婚 女性	35歳未満	18	7.6	4	1.7	1	0.4	0	0.0	2	0.8	199	83.6	7	2.9	7	2.9	238
	35歳以上	8	10.8	4	5.4	1	1.4	1	1.4	1	1.4	55	74.3	0	0.0	4	5.4	74
	計	26	8.3	8	2.6	2	0.6	1	0.3	3	1.0	254	81.4	7	2.2	11	3.5	312
既婚 女性	35歳未満	16	12.0	2	1.5	1	0.8	0	0.0	0	0.0	106	79.7	1	0.8	7	5.3	133
	35歳以上	48	13.3	11	3.0	3	0.8	0	0.0	0	0.0	261	72.3	7	1.9	31	8.6	361
	計	64	13.0	13	2.6	4	0.8	0	0.0	0	0.0	367	74.3	8	1.6	38	7.7	494
女性総計		91	11.1	21	2.6	6	0.7	1	0.1	3	0.4	624	76.0	15	1.8	60	7.3	821

最初に中絶を受けたときの年齢を聞いており、男性は受けさせたときの年齢を答えていたのが46名中26名(56.5%)で平均24.4±6.0歳(16~40歳)であり、女性は122名中87名(71.3%)で平均24.1±6.3歳(17~42歳)であった。また、2回目の年齢を答えているのは男性9名平均25.4±5.0歳(18~33歳)、女性16名、平均24.9±6.3歳(18~36歳)であった。

この初回の中絶年齢を20歳未満群、20-24歳群、25歳以上群と区分に分けて構成比をみると、

表3に示すごとくとなっていた。この表から初回中絶時の年齢をとおして、その背景を検討するに女性は母数からみて妥当と思われた。

尚、中絶時の年齢から中絶の既往回数の検討を試みたが、複数回の既往を持つ女性31名では初回中絶時年齢を回答（記載）したものは皆無であった。

表3. 初回中絶年齢区分に分けた構成比

性別	16-19歳	20-24歳	25歳以上	総計	男女比
男性	5(19.2)	13(50.0)	8(30.8)	26(100)	23.0%
女性	21(24.1)	35(40.2)	31(35.6)	87(100)	77.0%
総計	26(23.0)	48(42.5)	39(34.5)	113(100)	100.0%

3. 最近1年間の人工妊娠中絶の既往について

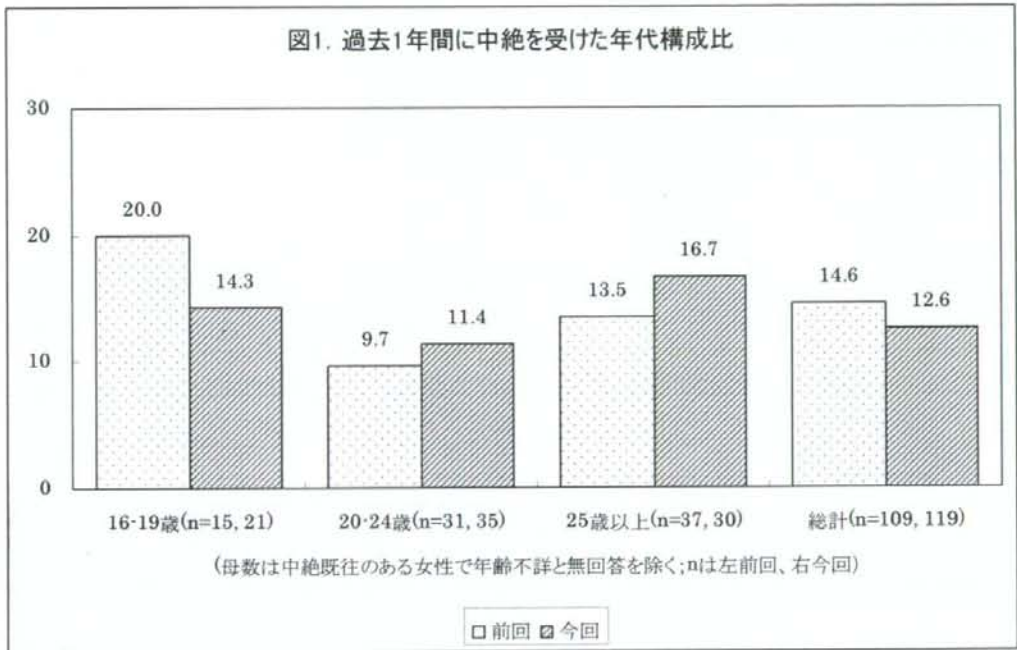
人工妊娠中絶の既往のある者に対し、最近1年間での経験の有無を問いかけている。男性は46名中7名(15.2%)で、2回の既往は1名であった。女性は122名中14名(11.5%)であり、2回の既往は未婚女性の1名であった。

表4. 最近1年間の人工妊娠中絶の既往者

		1回	(%)	2回	(%)	ない	(%)	無回答	(%)	総計
未婚	35歳未満	3	30.0	0	0.0	7	70.0	0	0.0	10
	35歳以上	0	0.0	0	0.0	7	87.5	1	12.5	8
	計	3	16.7	0	0.0	14	77.8	1	5.6	18
既婚	35歳未満	2	14.3	1	7.1	10	71.4	1	7.1	14
	35歳以上	1	7.1	0	0.0	13	92.9	0	0.0	14
	計	3	10.7	1	3.6	23	82.1	1	3.6	28
男性総計		6	13.0	1	2.2	37	80.4	2	4.3	46
未婚	35歳未満	4	16.0	1	4.0	20	80.0	0	0.0	25
	35歳以上	1	6.7	0	0.0	12	80.0	2	13.3	15
	計	5	12.5	1	2.5	32	80.0	2	5.0	40
既婚	35歳未満	1	5.3	0	0.0	17	89.5	1	5.3	19
	35歳以上	7	11.3	0	0.0	55	88.7	0	0.0	62
	計	8	9.9	0	0.0	72	88.9	1	1.2	81
女性総計		13	10.7	1	0.8	105	86.1	3	2.5	122

1年間に中絶に至った女性は105名であり、その時の年齢を明記したものは104名であったが既往回数の無回答を除くと86名であり、87名中の1名の年齢不明を除いた14名(16.3%)であった。

年齢が判明し無回答を除いたものを母数にして16-19歳、20-24歳、25歳以上での構成比を図1. に示す。各年代間に有意差は認められなかったが25歳以上では16.7%と高く、次いで20歳未満の14.3%であった。20-24歳が最も低く11.4%であり、全体では11.8%となっていた。前回調査時と比較すると全体では2ポイントの減少であるが、20歳未満の中絶者が5.7ポイント減少、20歳前半が1.7ポイント上昇、25歳以上が3.2ポイント上昇していた。



4. 最初の人工妊娠中絶を決断した理由

男性からみるパートナーが、最初の人工妊娠中絶を決断した理由で最も多かったのが「経済的な余裕がない」で32.6%、次に、「結婚していないので産めない」19.6%であり、「相手との将来が描けない」8.7%であった。

当事者である女性の最初の中絶を決断した理由として第一に挙げていたのが「結婚していないので産めない」が27.9%であった。次に高いのは「経済的な余裕がない」で15.6%、「相手との将来が描けない」12.3%にみられた。8項目のなかには理由がないが23.8%と高く、女性の複雑な心理的要素も窺われた。この経済的理由に男性が多く有意差($p < 0.05$)を認めたが、パートナーが中絶したか否かが不明なものが有意に多く、男性自らの認識で経済的理由を多く挙げていたためと考える。

表 4-1. 男性からみるパートナーが中絶を決断した理由

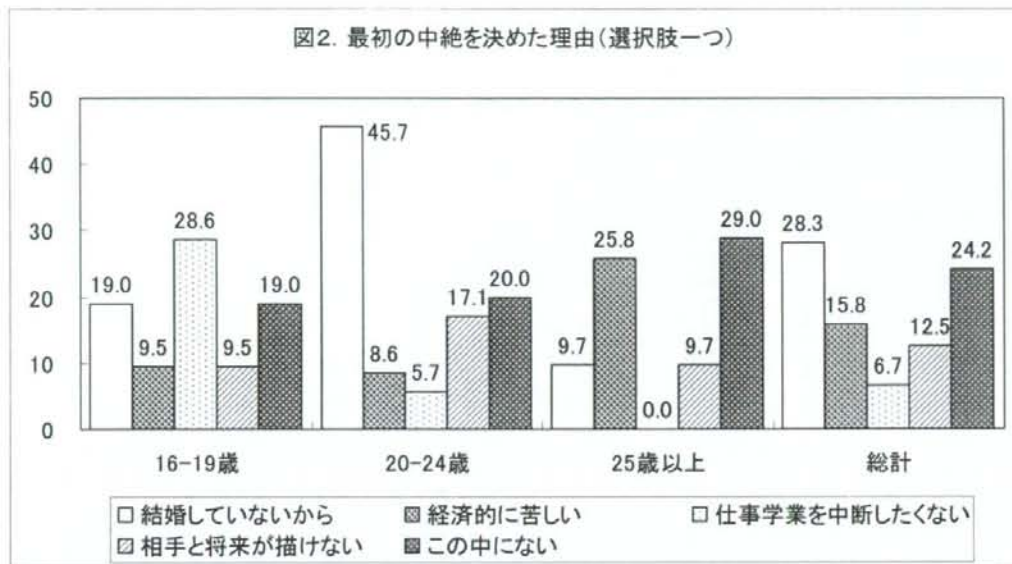
	未婚男性			既婚男性			男性 総計
	35歳未満	35歳以上	計	35歳未満	35歳以上	計	
結婚していないので産めない	5(50.0)	0	5(27.8)	0	4(28.6)	4(14.3)	9(19.6)
経済的な余裕がない	2(20.0)	3(37.5)	5(27.8)	5(35.7)	5(35.7)	10(35.7)	15(32.6)
これ以上子どもは産めない	0	1(12.5)	1(5.6)	0	2(14.3)	2(7.1)	3(6.5)
自分の身体が出産に耐えられない	0	0	0	0	0	0	0
仕事や学業を中断したくない	1(10.0)	0	1(5.6)	0	0	0	1(2.2)
育児の自信がない	0	1(12.5)	1(5.6)	0	0	0	1(2.2)
相手との将来が描けない	1(10.0)	2(25.0)	3(16.7)	0	1(7.1)	1(3.6)	4(8.7)
相手を好きになれない	0	0	0	1(7.1)	0	1(3.6)	1(2.2)
この中がない	1(10.0)	1(12.5)	2(11.1)	8(57.1)	2(14.3)	10(35.7)	12(26.1)
無回答	0	0	0	0	0	0	0
総計	10	8	18	14	14	28	46

表 4-2. 最初の中絶を決断した理由

	未婚女性			既婚女性			女性 総計
	35歳未満	35歳以上	計	35歳未満	35歳以上	計	
結婚していないので産めない	6(24.0)	5(33.3)	11(27.5)	7(36.8)	16(25.8)	23(28.4)	34(27.9)
経済的な余裕がない	2(8.0)	3(20.0)	5(12.5)	2(10.5)	12(19.4)	14(17.3)	19(15.6)
これ以上子どもは産めない	0	0	0	2(10.5)	2(3.2)	4(4.9)	4(3.3)
自分の身体が出産に耐えられない	1(4.0)	0	1(2.5)	0	3(4.8)	3(3.7)	4(3.3)
仕事や学業を中断したくない	1(4.0)	1(6.7)	2(5.0)	2(10.5)	4(6.5)	6(7.4)	8(6.6)
育児の自信がない	2(8.0)	0	2(5.0)	0	2(3.2)	2(2.5)	4(3.3)
相手との将来が描けない	6(24.0)	3(20.0)	9(22.5)	3(15.8)	3(4.8)	6(7.4)	15(12.3)
相手を好きになれない	1(4.0)	0	1(2.5)	0	2(3.2)	2(2.5)	3(2.5)
この中がない	6(24.0)	1(6.7)	7(17.5)	3(15.8)	18(29.0)	21(25.9)	29(23.8)
無回答	0	2(13.3)	2(5.0)	0	0	0	2(1.6)
総計	25(100)	15(100)	40(100)	19(100)	62(100)	81(100)	122(100)

これらの表は、現在の未既婚別年代別に分けて示しており実施時の考えではないため、女性だ

けを対象にし、実施時年齢で主だった項目を16-19歳、20-24歳、25歳以上に分けたものを図2.に示す。



これによると10歳代では「仕事や学業を中断したくない」が最も高く28.6%であった。20-24歳では「結婚していないから」45.7%、「相手と将来が描けない」17.1%と高かった。25歳以上になると「この中不在」が29.0%と多いものの「経済的に苦しい」25.8%であり、その時の年齢に応じて中絶の理由が明確に分かれていた。

5. 最初の人工妊娠中絶を決断したときの気持ち

男性からみるパートナーが最初の人工妊娠中絶を決断したときの気持ちとして、「胎児に申し訳ないと思った」28.3%、「相手に申し訳ないと思った」21.7%、「自分を責める気持ちでいっぱい」13.0%であった。

表 5-1. 男性からみるパートナーが中絶を決断したときの気持ち

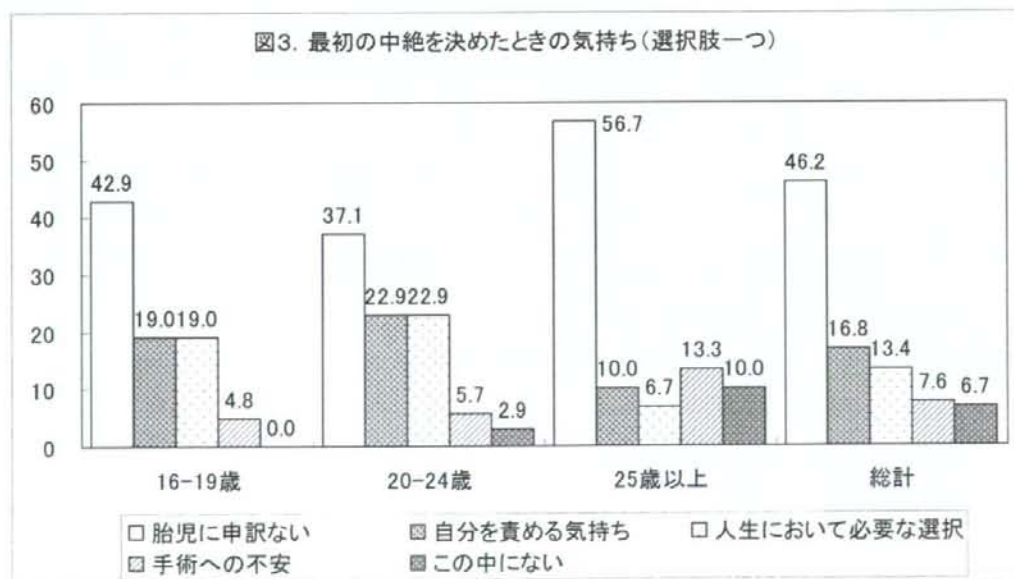
	未婚男性			既婚男性			男性 総計
	35歳未満	35歳以上	計	35歳未満	35歳以上	計	
人生において必要な選択	2(20.0)	1(12.5)	3(16.7)	0	2(14.3)	2(7.1)	5(10.9)
解放されると思った	1(10.0)	0	1(5.6)	0	0	0	1(2.2)
手術への不安	0	0	0	1(7.1)	0	1(3.6)	1(2.2)
自分を責める気持ち	2(20.0)	1(12.5)	3(16.7)	2(14.3)	1(7.1)	3(10.7)	6(13.0)
胎児に申し訳ない	2(20.0)	3(37.5)	5(27.8)	4(28.6)	4(28.6)	8(28.6)	13(28.3)
相手に申し訳ない	1(10.0)	2(25.0)	3(16.7)	3(21.4)	4(28.6)	7(25.0)	10(21.7)
相手に対する怒り	0	0	0	0	1(7.1)	1(3.6)	1(2.2)
親に対して申し訳ない	0	0	0	0	0	0	0
この中不在	2(20.0)	1(12.5)	3(16.7)	4(28.6)	1(7.1)	5(17.9)	8(17.4)
覚えていない	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	1(7.1)	1(3.6)	1(2.2)
総計	10(100)	8(100)	18(100)	14(100)	14(100)	28(100)	46(100)

最初の人工妊娠中絶を決断したときの気持ちとして、最も高かったのが「胎児に申し訳ないと思った」が45.1%と男性よりも高値であったが有意差は認めなかった。次に多かったのが「自分を責める気持ちでいっぱい」16.4%、「人生において必要な選択と思った」13.1%、「手術への不安」を感じたものが7.4%であった。

表 5-2. 最初の人工妊娠中絶を決断したときの気持ち

	未婚女性			既婚女性			女性 総計
	35歳未満	35歳以上	計	35歳未満	35歳以上	計	
人生において必要な選択	2(8.0)	2(13.3)	4(10.0)	3(15.8)	9(14.5)	12(14.8)	16(13.1)
解放されると思った	1(4.0)	0	1(2.5)	0	0	0	1(0.8)
手術への不安	1(4.0)	2(13.3)	3(7.5)	0	6(9.7)	6(7.4)	9(7.4)
自分を責める気持ち	6(24.0)	6(40.0)	12(30.0)	4(21.1)	4(6.5)	8(9.9)	20(16.4)
胎児に申し訳ない	12(48.0)	3(20.0)	15(37.5)	9(47.4)	30(48.4)	39(48.1)	55(45.1)
相手に申し訳ない	0	0	0	0	1(1.6)	1(1.2)	1(0.8)
相手に対する怒り	1(4.0)	1(6.7)	2(5.0)	0	1(1.6)	1(1.2)	3(2.5)
親に対して申し訳ない	1(4.0)	0	1(2.5)	0	2(3.2)	2(2.5)	3(2.5)
この中不在	1(4.0)	0	1(2.5)	1(5.3)	6(9.7)	7(8.6)	8(6.6)
覚えていない	0	0	0	1(5.3)	2(3.2)	3(3.7)	3(2.5)
無回答	0	1(6.7)	1(2.5)	1(5.3)	1(1.6)	2(2.5)	3(2.5)
総計	25(100)	15(100)	40(100)	19(100)	62(100)	81(100)	122(100)

これも同様に女性の中絶時年齢で持って 16-19 歳、20-24 歳、25 歳以上に分けて主だった気持ちを図 3 に示した。



これによると「胎児に対して申し訳ない」という気持ちがどの年代においても高かったが 25 歳以上がこの思いに集中していた。20-24 歳では「自分を責める気持ち」と「人生において必要

な選択」と分散していた。10歳代では、その分散度が低かった。

Ⅷ. 人工妊娠中絶について小括

1. 人工妊娠中絶に関する考え

人工妊娠中絶を単に「認める」という考えは男性 13.8%に対し女性は 8.0%と有意 ($p < 0.001$) に低値を示していた。このことは、「条件付で認める」、「どちらともいえない」の中に分散され男性よりも女性が高値となり、「認めない」が男性 7.4%に対し女性 6.0%と 1.4 ポイント下回っていた。

女性は「認める」と明言することなく他の選択肢に広がっており、自らの胎内に生命を宿すという観点から複雑な心境を表しているものと思われた。

2. 人工妊娠中絶の既往について

女性が人工妊娠中絶を一度も経験していないのが 76.0%であり、男性は無いと答えたのが 75.9%とほぼ同じ値と示していた。中絶経験者は 14.9%であり、うち 2 回以上の経験者は 25.4%と約 4 分の 1 が複数回の経験者であった。これを未既婚に分けてみると未婚 35.0%、既婚 21.0%と未婚に多く、35 歳を境にして 35 歳以上の未既婚では 27.3%であり、35 歳未満 22.7%であった。複数回の経験者は年齢が高くなるにつれ多くなると推測できる。しかし、繰り返しの中絶は避妊に対する考えが次第に安易に捉えるようになっていることが窺われた。

初回中絶時の年齢を回答していたのが 122 名中 87 名 (71.3%) であり、その平均年齢は、 24.1 ± 6.3 歳 (17~42 歳) であり、前回調査の 24.8 ± 5.9 歳 (16~34 歳) と比べ変化は認められなかった。

女性の初回中絶時年齢を次の 3 区分にすると 16-19 歳 24.1%、20-24 歳 40.2%、25 歳以上 35.6%であったので、この 3 区分でも検討した。

尚、複数回の中絶経験者においては、初回中絶時年齢を記載していたのは皆無であった。

3. 最近 1 年間の人工妊娠中絶の既往

中絶経験者でこの 1 年間に中絶を経験したものが 14 名 (16.3%) で、2 回も経験したのが 1 名にみられた。中絶既往者で最近 1 年間に受けたものは 16-19 歳で 14.3%、20-24 歳 11.4%、25 歳以上 16.7%であり、いずれもが初めての経験であることから新規参入率と読み取ることができる。

前回調査時をみると 109 名中 14 名 (12.8%) と増えており、10 歳代で 20.0%、20-24 歳 9.7%、25 歳以上 13.5%、各年代において違いはあるものの有意差は認めておらず示唆されるものは得られなかった。